

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

# つ の ぶ え



社会福祉法人  
**小羊学園**

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707  
E-mail kohitsuji@imix.or.jp  
H.P <http://www.kohitsuji.or.jp/>

発行人：稲松義人  
印刷所：SRS株式会社  
定 価：一部30円

2011年12月20日  
第 344 号

## 富山のお母さん

理事長 稲松義人

古くからつのおぶえをお読みくださっている方は、アキちゃんとう富山のお母さんの話をご存じではないかと思えます。富山のお母さんこと青山トシさんは故青山啓七氏の夫人で、今春天に召されました。お二人は小羊学園に入所する一人の男児で夏休み冬休みに帰省する先がない「アキちゃん」(今は成人していますがこう呼ばせてもらいます。)の帰省先として、実に40年近くも受け入れてくださいました。

啓七氏は、小羊学園の創立者山浦俊治氏がまだ十代の頃、戦前の満州で仕事をしていたときの上司に当たる方でした。その縁から、青山氏のご長男の仁さんが小羊学園で働いたことがありました。その時に富山に帰省される仁さんが、アキちゃんと一緒に連れて帰ってくださったのが始まりだそうです。それからアキちゃんにとって青山さんご夫妻は、富山のお父さんお母さんで、仁さんのご家族、娘さんのみどりさんのご家族も含め、本当の家族、親戚のようにお付き合いくださいました。きっと富山では、お母さんと一緒に近所におつかいに行ったり、日曜日には青山さんご夫妻と教会にも行ったり、アキ

ちゃんにも家庭の温かい思い出がたくさんあるのだと思います。

ここ数年は、トシさんも高齢のため自らアキちゃんのお世話をすることはできませんでしたが、アキちゃんが訪ねるのを楽しみしてくださり喜んで受け入れてくださいました。その間身の回りのことはみどりさんがしてくださりました。今年の春、トシさんの訃報を聞きましたが、私も日程が取れず葬儀にも伺えずにいました。夏が過ぎた頃になってアキちゃんから富山に行きたいと申し出があり、今アキちゃんが入居している温心寮の職員と相談し、一泊でお墓参りをしに行くことになったのです。

アキちゃんにとっては、初めてお母さんのいない富山への帰省です。お母さんの死をどのように受け止めるのだろうかと案じましたが、アキちゃんはしっかりと理解していました。「お母さん天国に行ったね。山浦先生も明子先生もいるね。栄ちゃん(亡くなった昔の小羊学園の仲間)もいるね。お空(天国)から見てるね。大丈夫だよ。」と淡々と話しました。

今回はお母さんと一緒に布団を並べることができないから仁さんのお家に泊めてもらおうということで、その日の夕食は仁さんご一家が近くのレストランでしゃぶしゃぶをご馳走してくださいました。同席した仁さんの娘さんタミさんは、きっと子どもの頃には

秋ちゃんと一緒に遊んでくれたのでしよう。本当の家族のように自然にアキちゃんに心配りしてくれそうです。

翌日の日曜日、今はいない青山さんご夫妻と同じように仁さんが教会に連れて行ってくださいました。礼拝のあと、何人かの教会の人たちが、「アキちゃんよく来たね」と笑顔で声をかけてくださいました。

アキちゃんももうすぐ50歳です。彼は実の両親に育んでもらうことはできませんでした。4歳で小羊学園に入園し、もちろん歴代の小羊学園の職員たちも精一杯彼を受け止め、必要な支援をしてきました。しかし、富山での生活の中で、施設の中での支援する支援されるという人間関係を越えて、多くの人たちが彼の人生に関わりをもってくださったことを感じました。

みどりさんが用意してくださったフォトスタンドに入った富山のお母さんの写真が、温心寮のアキちゃんの部屋に飾られています。今度はいつ富山に行くことができるかわかりませんが、アキちゃんの心の中には、いつまでもいつまでも富山のお父さん、お母さんがいることでしょう。

今も様々な事情から、小羊学園(三方原スクエア児童部)に入所する子どもたちがいます。温かく育んでくれる家庭にもどしてあげたい。たくさんの人たちに受け入れてもらえる人生を送って欲しいと願わずにはおられません。

# 理事長・年末対談 長田治義氏（浜松市市民協働センター長）

稲松義人（小羊学園理事長）

## ―地域で考える福祉―

稲松…三方原スクエアの建築の後、南区（浜松市）にあるマルカートに施設長として赴任して、早3回目の年末を迎えました。これまでの施設を拠点とした福祉活動と違って、地域の中でどのように支えあっていくかという課題を感じています。地域の中には施設とは比較にならないほど様々な課題が重なりあっていきます。また、それらの課題について考えるとき、一事業所が制度の枠の中でサービスを提供するというだけでは到底カバーしきれないと強く感じています。その辺の問題意識で、浜松市市民協働センターでお働き

になっていらっしゃる長田さんとは、前から一度お話をしてみたいと思っていました。

長田…マルカートでは、娘が大変お世話になっていきます。毎日、笑顔で出掛ける娘。そんな娘を見るたび、幸せな気持ちになります。本当にありがとうございます。

さて、市民協働センターは、2010年4月に旧まちづくりセンターに代わってオープンした浜松市の施設です。僕は、縁あって指定管理者として、こ

の施設のセンター長を務めることになりました。

鈴木市長が「市民協働で築く未来輝く創造都市、浜松」を、提唱しています。これを実現していくためには、市内で様々な活動を展開している、それぞれの市民活動団体が、今以上に力を付けていかなければなりません。

約2年間で、市民活動団体を支援するために、講座や人材育成研修を開催したり、団体への情報提供や情報発信をしたり、また様々なご相談にも答えました。センターの知名度はまだ高いとは言えません。けれど、市民協働推進の拠点とならなければいけない。責任重大ですね。

僕が、一番力を入れてい入るのが、行政、企業、市民活動団体が協働する新しい事業展開を生み出



浜松市市民協働センター

すこと。たとえば、NPO法人と社会福祉法人が協働して行う、新たな事業とか…。

稲松…障がい者福祉の最近の動向としては、「施設や病院ではなく地域で」とか、「障がいのある人を排除しない社会づくり」とか言われます。しかし、今のところ障がい者施策の出発点が、障がいのある人のための施設であったり、障がいのある人を対象にした制度であったりするので、障がいのある人もない人も含めて対応するという発想に立ってません。今年、東日本大震災があり、大津波という広域に緊急の対応が求められる災害を経験しましたが、そういう場面になると、障がいのある人だけを対象にした取り組みについて行政の想定する範囲で対応することで対応しきれないところがたくさんできます。防災などということについては、市民自身が地域にある課題に取り組むということがなければ、行政だけでは対応できないだろうと思います。

長田…確かに防災も市民協働で取り組まなければならない課題の一つです。現に、自ら被災者でありながら、現地に留まって住民の支援を行っている人の話を伺うことができました。

行政が設けた避難施設には、障がいのある人やその家族は、他の避難者のことを気遣って、避難することができ

なかったと言います。そこで、震災前から通所していた社会福祉法人の施設に避難し、そこに震災前から関わりを持ち続けていた市民団体が、支援物資を運び込んだと聞きました。

ツイッターやFacebookなど、インターネットを介して人と人がつながっていく時代。これらも威力を発揮する武器となり、有効に使っていく必要があると思います。でも最後は、顔の見えるつながりを持つているか否かが、大きな力となることを痛感しましたね。僕のNPO法人活動の実体験からいえば、自分たちだけの法人で実施している事業は、あまり成功しない。継続もしない。継続していたとしても、毎年同じことを繰り返しているだけで、発展性がなく、マンネリ化するというケースが多いですね。「それでいい」ということでは、「何のための法人格」ということになってしまします。

震災支援のみならず、環境問題であ



◀長田治義氏（市民協働センター長）

るとか、子育てについても、市民協働で取り組まなければならない大きなテーマです。それぞれの団体が、真剣にこのテーマに取り組んでいます。

団体は時に、縦割り行政を痛烈に批判することが、しばしばありますよね。でも、私たちも、行政の格組にとらわれ、環境団体と子育て支援団体が、手を取り合うことはなかったのではないのでしょうか。

しかし、生活の中では、環境問題も、子育ての問題も同時進行で起こっている。行政では、合間見えない2つの問題を、市民団体が連携して同時進行で行う事業もできるはず。そこに行きつくには、日ごろの地域コミュニティが不可欠になると感じています。そういう意味で、市民協働センターの大切な役割として、まちの縁側としての存在価値を高める必要性を感じています。

**稲松**..私も最近の社会では、子どもを共に育むためのコミュニティが著しく崩壊してしまったことを痛感しています。マルカートと一緒にドルチェという障がいのある子どもの放課後支援をしています。いわゆる児童保育の対象だけではなく、放課後活動、家庭や地域でカバーできない余暇活動、さらに緊急時の対応など、様々なニーズが入り混じっています。これらのニーズを同じ制度で受け止めることの限界と矛盾を感じます。もう少し、子ども

たちも自身も含め、市民の力を生かして地域の課題として取り組むことができないだろうかと思っています。この問題に限らず、これからの福祉、特に地域福祉においては、「市民力」ということがキーワードだと思います。

### —市民力をどう高めるか—

**長田**..同感です。毎年、幸福度調査なるものが行われ、各国の幸福度ランキングが発表されます。毎回、日本のランキングは低いといわざるをえません。

今までは、多くの富を得、多くの名声を得たその先に幸福があると、僕自身も思い込んでいました。地球全体を見渡した時、これだけの物質に恵まれ、24時間いつでも、栄養過多で肥満になるほど物が食べられる国なのに、幸福を感じない。感じることでできない人が多いのはなぜなのでしょう。

今回の震災が、実は本当の幸福とは何かを教えてくれているような気がしてなりません。その答えを見出した人こそ、人間力の高い人ではないかと思えます。そして、人間力の高い人たちが、力を結集したとき、市民力が高められると感じています。

震災を通して、「絆」という言葉が頻繁に使われるようになりました。先日、ある市の管理職が『絆とは何だ？ ぼくにはよく分からない』とおっしゃっていました。広辞苑を開きその意味を



▶稲松義人法人理事長

調べたそうです。

彼を批判する気は毛頭ありません。おそらく、多くの人が同じ行為をしたのだからと思います。ただ、うまく表現できませんが、僕は感覚的に彼は不幸だなと感じたのです。確かに言葉には語源があります。けれど、震災によって使われ始めた『絆』は、人それぞれが思う感性に委ねればよいのではないのでしょうか。

「人と人の強いつながり」でも、「何か心が温まるもの」でも、「被災者を応援する合言葉」であってほしいと思うのです。僕は、「人と人の心を繋ぐ、見えない鎖」だと思っています。「絆」とは、まさに人間の感性を表現した言葉。その語源を白黒させてしまいうことが、幸福度ランキングを下げているように思ってしまうのです。

つまり、市民の活動には行政の枠組みはなく、どんな団体や行政窓口でも、どんな企業とでも手を取り合って、そ

れを繋ぎわせ、協力して働ける。そういう人間力の高い人づくりが、市民力を高めていくのだと思います。

**稲松**..重なり合う課題を整理し、それに対応してくれる様々な立場の人たちをコーディネートしてくれる人や機関が求められるということですね。

**長田**..そうですね。センターでは市民協働を一つずつ実現させ、実践を通してコーディネートできる人材を育てられる施設となれるよう、努力していきたいですね。

そうそう、今日のこの日をきっかけに、市民協働センターと稲松さんの社会福祉法人が協働して、みんなが笑顔になることを始めませんか。

**稲松**..小羊学園も社会福祉法人で、地域のニーズを受けて制度の枠の中で福祉サービスを提供することが活動の中心で、市民から多くのサービスを求められることで事業展開を考えがちです。

しかし、真の福祉社会を築いていくためには、市民力を強化するような方向性をもたなければならぬと感じました。ぜひ、小羊学園が今向き合っている課題を、市民と協働して取り組むような事業展開を考えてみたいと思います。そのときにはぜひ市民協働センターとしてご指導ください。

今日はありがとうございました。

### 共同生活介護温心寮ひだまり

玄関を改修することで、温かいリビングを作ることができました。夕食後や、休日には利用者が自然と集まり、おしゃべりしたり、のんびり過ごしたりしています。また、トイレも広くすることができ、介助が必要な利用者も安心して使うことができるようになりました。

ありがとうございました。



### 重症児講座 行なわれる

つばさ静岡は昨年度に引き続き静岡県の委託を受けて、「重症心身障害児（者）在宅支援充実強化対策業」に取り組んでいます。これは、「重症心身障害児（者）が今後より一層充実した在宅生活が送れる」ことを目的としたものであり、その中心をなす事業として、11月2・4・17・18日には、県内各地の事業所の職員を対象に「介護

### 共同募金 受配報告



#### 三方原スクエア成人部

入浴用リフトを設置しました。座位が不安定な利用者も安全に、安心して風呂にゆっくり入れるようになりました。職員も安心して介助することができ、入浴時間が今まで以上に楽しい時間になりました。

ありがとうございました。

従事者の資質向上研修（63名、うち施設実習55名）「ケアマネジメント従事者の養成研修（34名）」がつばさ静岡を会場に実施されました。重症児者とその後家族の自分たちの選んだ場所です。安心して生き生きと暮らしたいという願いに、個々の事業者が単独にかかわるのではなく、ネットワークを形成して、課題を共有し、よりよい方向を模索し、共同で取り組んでいくという機運が着実に高まっていることが実感できました。

### 「宝石箱展」を開催しました

この度、昨年に引き続きクリエート浜松にて「宝石箱展」を開催することが出来ました。準備をさせていただきます。開催するにあたり準備をされた中道芳子先生並びにクリエート浜松の村瀬館長はじめ職員の方々や、素晴らしい作品を出展していただいた多くの方々に感謝申し上げます。

さて、今年も出展された作品を眺めていると、その鮮やかな色彩とともに、絵そのものが作者の気持ちを語りかけてくると感じました。一枚の絵を描くことをとおして、子どもも老人も障がい者も同じ環境の中で一つになり、ともに支えあうような関係の輪が大きくなっていくことを願います。

多くの方に足をお運びいただき、ありがとうございました。（三方原スクエア）



### 小羊学園を支える会

#### 2011年度寄付金報告

11月受付分	872,640円 (22件)
累計	3,717,870円 (173件)

#### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
 口座名義 社会福祉法人小羊学園  
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。  
 小羊学園を支える会事務局（鈴木）  
 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

### 編集後記

先日、他法人の地域交流パーティーに理事長代理で出席させていただきました。その際、今回対談していただいた長田氏とお話させていただいた機会があった。お話を交わす中で、市民協働の面白さがひしひしと伝わり、私自身に熱い気持ちがかみ上げてきた。

以前から地域の中で障がいのある人もない人も一緒に活動できる拠点があれば…と考えている。それは福祉サービスに捉われず、子どもやお年寄りなど誰もが気兼ねなく立寄れるような場であって欲しいと願っている。

本格的な寒さが到来します。お身体どうぞご自愛下さい。（F）